



暑かった夏もようやく終わり、朝夕には秋の気配を感じる季節となりました。

9月には教育実習が行われました。最終日のお別れ会では互いに涙する姿もあり、実習の先生方と過ごした授業や日々の関わりは、生徒にとって新鮮で学びの多い時間となったようでした。また、実習の先生方にとっても、生徒との交流を通して貴重な経験を積む機会となったことと思います。今回の出会いや学びが、生徒と実習の先生方双方の今後の歩みに生かされることを願っています。

前期の学習は昨日で終了となり、後期が始まりました。そして、10月2・3日には、生徒会の最大行事である「附中祭」を迎えます。クラスや委員会、部活動ごとにこれまでの準備の成果を発揮する大切な場となります。自分の役割を自覚し、仲間と力を合わせて取り組む姿や、ステージで思い切って自分らしさを表現する姿など、今年度の生徒会テーマ「灯火～一人ひとりの個性が、あたたかい附中を創る～」がどのように体现されるか楽しみです。附中祭を通して、生徒一人一人の成長と全校で築き上げる結びつきが、後期の学校生活にもつながることを期待しています。



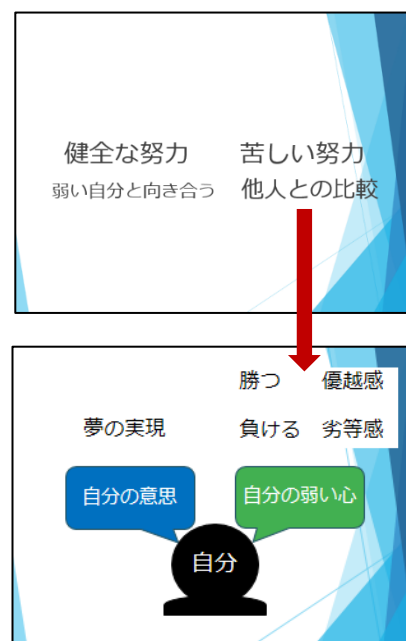
心の豊かさとは？ ～校長先生のお話より～

「たくましく 心豊かな 地球市民であれ」という話を受け、前回から心の豊かさについて話を進めています。今日も、心の豊かさについて話をします。

夢に向かっていくには、当然ですが努力が必要です。世界陸上でも、110mハードルの村竹ラシッド選手が、0秒06の差で3位に足りずメダルを逃したのですが、「何が足りなかったんだろう。何が今まで間違っていたんだろう。パリオリンピックが終わってからの1年間、本気でメダルを目指して練習してきた。メダルをとってみんなと一緒に喜びたかった」と涙ながらにインタビューに答えている映像を見ましたが、皆さんも見たでしょうか。自分の夢を叶えるには、努力が本当に必要だと思います。

こんな、言葉を知っていますか。「努力は力なり」、私も大切にしている言葉です。これは、「継続的な努力が最終的に大きな力になる」ことを意味しています。しかし、私の経験で、努力にも2種類あるような気がしています。それは、『健全な努力』と『苦しい努力』です。『健全な努力』は「弱い自分と向き合う努力」です。『苦しい努力』は「他人と比較する努力」です。皆さんはどちらでしょうか。

『苦しい努力』をイメージしてみましょう。常に、みんなより前を行こうとします。しかし、前に出てみると、前に人がいることに気づきます。「まだいるのかよ」と思うし、後ろから抜かれると、「くそう」と思うと同時に、あきらめたくもなります。苦しいですね。自分の意思と自分の弱い心で考えると、勝てば「あいつに勝ったという優越感」、負ければ「あいつむかつくという劣等感」。自分で、自分を序列化していく苦しさも加わってくるように思います。こんなに頑張っているのにと思っていても、他人との比較では報われないことがあります。なぜなら、他人は「自分ではどうしようもないこと」だからです。他人との比較は、努力し続けるのが苦しいと、私は思います。



しかし、『健全な努力』は「弱い自分に向き合うこと」です。ゲームしたい。SNSしたい弱い自分に打ち勝って、努力し続けることが、自主であり、克己にもつながってきます。

まずは、弱い自分と向き合い、前の自分を超えていく。そして、弱い自分に向き合い、前の自分を超えていく。これが夢に近づいていくと思います。そして、他人はライバルから共に頑張る仲間になっていきます。努力の考え方、皆さんも考えてみてください。

ちなみに、村竹ラシッド選手は「パリオリンピックと同じ5位だけれど、タイムは伸びているし、3位との差も縮まっている。決勝に残れたことを誇りに思いたいし、何年かかってもメダルを取りたい」と語っています。自分と向き合い、夢に向かって進む村竹選手かっこいいですね。



さて、心の豊かさに加えて、前回の続き「いじめ」についても考えていきたいと思います。全国学力学習状況調査のアンケートの結果、「いじめは、どんな理由があっても、いけないことだと思いますか」について、「当てはまる」と回答できた3年生が少ないことについて、考えてもらいました。しかし、3年生は、地域や社会をよくしたいと考える大変意識の高い3年生です。

この結果を見た2年生から、こんな声が寄せられました。「いじめについて、様々な考え方・視点があると思いました」「『しょうがない』『当然』とってしまうとずっと続いてしまうので、少しでもそういう気持ちを自分で倒していかないといけないと思いました。」

1年生から、こんな声が寄せられました。「自分はいじめはどんなことがあっても良くないと思います。いじめられている人も傷つくし、周りで見ってしまった人も言えなくなってしまうので、全員が傷つくだけだと思うからです。」「どうして完全に「そう思う」という人が少ないのか不思議に思いました。いじめられたからなどの仕返しであったとしても、絶対にしてはいけないと思いました。どうして、このような結果になったのか、3年生に意見を聞いてみたいと思いました。」

3年生からは、こんな意見が寄せられました。「いじめはいけないこと」だということをしっかりと理解して、全校の意識から変えていく必要があると思う。」「いじめはいけないと強い意志を持っている人が少し少ないと思う。強い意志を持った人が増えるように、どうしていけないのか、みんなが考えることが大事だと思う。」

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う人は多数いるが『強くそう思う』と答えるのに不安があるから、このような結果になったのではないかと考える。いじめの認識は相手によって決まるので、『もしかしたら、嫌なことを知らず知らずのうちにやっているかもしれない』と不安に思ってしまうのではないかな。このようなことをなくすには、いじめのことをより深く知る必要があると思う。」

校長先生は絶対にいじめを許しません。

しかし、皆さんにも納得して、いじめを許さないという意識変革をして欲しいと思っています。そのために、しっかりと考える機会を作っていきたいと思っています。

私も、絶対にいじめを許しません。しかし、皆さんにも納得して、いじめを許さないという意識変革をして欲しいと思っています。そのために、しっかりと考える機会を作っていきたいと思っています。

アンケートを振り返ってみましょう。「どんな理由があっても」と言い切れないということは、何かいじめでも良い理由があるのだろうか。みんなどうだろう。

学級でも後日話し合おうと思いますが、3年生からこんな意見も寄せられています。「いじめに対しての事の重大さがあんまりわかっていないんだと思った。もっと、真剣になってほしい。」

みんなは、いじめに真剣に向き合っていますか。しっかりと向き合い、考えてほしいと思っています。